

## 珍しい鳥類——ズグロカモメの黄河三角州における分布

趙 延 茂

訳 福井和二

ズグロカモメ (黒嘴鷗 *Larus saundersi*) は希少鳥類の一種で世界野生生物基金の推計では、世界にわずか2000羽余りが生息するのみとしている。主に河川、沼沢地域に生息し、魚、エビその他水生甲殻類などを食べている。ズグロカモメの山東省における分布、繁殖についてはこれまで報告がなかった。我々は1992年6月と1993年6月に黄河三角州地域の分布状況について観察を行ない、明らかとなった結果を以下に報告する。

### 1. 自然概況

清朝末期以来100余年の黄河三角州は、黄河が持ち込む大量の土砂が渤海に堆積して出来上がったものである。墾利県の寧海を頂点とし、北の套尔河から南の淄脉河まで、海に突き出た沖積地帯の、面積5400km<sup>2</sup>をいう。気候は温暖な季節風型大陸性気候で、四季の変化が明瞭、雨期は夏にあり、平均気温は12.1℃、年降水量は551.6mmである。この地域は河川の流れが多く、湖沼が、空の星、盤面の基石のように分布しており、そこには水生生物800余種が生息している。主な植物はヨシ、蓬碱(*Suaeda glauca*)<sup>1</sup>、ギョリュウなどである。潮汐は半日不規則に繰り返す。

### 2. ズグロカモメの分布状況

調査の主な対象は黄河河口の干潟に生息するズグロカモメである。調査方法は踏査による。

#### 2.1 ズグロカモメの黄河三角州における分布

南は旺河から北、新挑河の干潟、湿地で、そのうち旺河、広利河と淄脉河合流部、人工河、新挑河などに主に分布している。その生息環境の特徴はヤガラ、ヨシ、碱蓬などの植物が生え、甲殻類、魚類などが生息する大きな干潟に続く砂浜である。

#### 2.2 人間の活動がズグロカモメの分布に与える影響

小清河、小島河などの河口には多くの塩田、エビの養殖場があり、その他はヨシ、碱蓬などの生えた未開発地域がある。エビの養殖場には魚類や小型の甲殻類が生息している。これらはズグロカモメの豊富な巣材野食料となっている。しかし、南海鋪の開発が始まった防潮堤内ではこの2年間ズグロカモメを見ていない。防潮堤の外側の潮間帯は比較的広く、この2年間に12羽のズグロカモメを観察した。そのうち3羽は潮間帯に立っており、2羽は採食、8羽は飛行中であった。広利河下流地域の環境条件は比較的良好であるが、ここには港があり、わずかに淄脉河との合流部に形成された大きな干潟で多くのズグロカモメを観察した。しかし、広利河では3回の観察ともズグロカモメを見ることができなかった。

大汶流では2回調査を試みたが入ることができなかった。しかし、黄河河口北岸に出来たばかりの沖積泥土の中州で観察することができた。この一帯はズグロカモメの渡りに際して、幼鳥を見ることがあり、このことから大汶流にもズグロカモメの群れが滞在することが考えられる。

#### 2.3 風雨はズグロカモメの行動に大きな影響を与える。

1995年6月7日午前、中程度の雨が風を伴って降っていた。比較的環境条件のよい溝、河の分岐点でヨシ、碱蓬、ギョリュウなどの生えた油田開発地点にオオハクチョウ、クロヅルなど、多くの越冬中の鳥がねぐらをとっている。防潮堤内にはズグロカモメは見られず、日ごろ見かけるハシブトアジサシ (*Gelocheldon milotica*) も発見できなかった。しかし、1993年6月10日

(晴天), ここで23羽のズグロカモメを観察し, そのうち4羽が休息, 4羽が採食, 14羽が空中を飛翔していた。

ズグロカモメは(コロニー内を除き)引き潮によって出来た干潟の上で行動している。2年間のズグロカモメの調査によっても, 旺河, 人工河, 新挑河など引き潮により出来たばかりの干潟の上でよく観察された。そのときの行動は採食, 休息, 遊びなどである。1993年, 引き潮により出来たばかりの干潟で観察された。これらの干潟は多くの水をたたえた, 面積300~500m<sup>2</sup>ほどの小さな窪みがあり, そこに小魚, 小エビのほか数えきれないほどの小動物が生息している。

### 3. コロニーの調査状況

#### 3.1 コロニーの分布

黄河三角州におけるズグロカモメのコロニーは, 広利河と淄脉河の合流部にある干潟上と淄脉河河口港外の干潟の上の2ヶ所にある。

1993年6月8日人工河干潟で140羽のズグロカモメを観察したが, その周囲2km以内の範囲にコロニーは見られなかった。これと1992年6月4日ズグロカモメを見た旺河の一区域は, 其処より3km以上離れた広利河と淄脉河合流地点のコロニーがある干潟と非常に似ている。この調査の過程で, 人工河干潟の西南部でズグロカモメの攻撃を受けたが, その後交通手段の制限から調査を継続することが出来なかった。距離にしてそれほど遠くない河の分岐点附近もズグロカモメのコロニーがある可能性がある。

#### 3.2 コロニーの基本的環境

2ヶ所のコロニーがある地域は河川の合流, 分岐が多いところで, 満潮時には水没する干潟上で, しかし, 広大な植物が生えている地域である。ことにコロニーのある新挑河河口港外の干潟は植被の90%以上が碱蓬, ヨシなどで被われ, 裸地は非常に少ない, 広利河と淄脉河合流部干潟の営巣地域はミクリが60%以上, 次いでヨシ, 碱蓬におおわれ, パッチ状の裸地が比較的多く見られる。

#### 3.3 巣の調査状況

ズグロカモメの営巣場所は河流が交差し, 甲殻類や魚類資源の豊富な所である。1993年新挑河河口港外のコロニーと広利河と淄脉河合流部コロニーの溝を適宜抽出調査を行なったところ, 黄眼蟹<sup>2</sup>が平均24匹/m<sup>2</sup>と283匹/m<sup>2</sup>の2地域に分かれた。

1992年に両コロニーの8巣について, 巣の大きさ, 巣材, 営巣場所の環境選択などを調査した。巣材が豊富な新挑河河口港外のコロニー2巣(1,2号巣)の巣材は全部枯れた碱蓬で, 外径の平均24.0×22.5cm, 巣の高さ6.0cm, 深さ10cm<sup>3</sup>であった。広利河と淄脉河の合流点におけるコロニーの6巣については, 以下のいく種類かの形があった。①巣1, 2(3,4号巣), ミクリの生えた中の地上に, 90%以上碱蓬とその他少量のミクリ, ヨシの枯れ草を巣材とし, 平均外径18.5×17.5cmで, 海水に打ち上げられたヨシの枯れ草上に作られていた。②巣3(5号巣), 巣材は80%以上が碱蓬の枯れ草で, その他はヨシで構成されている。③巣4, 5(6,7号巣), 巣の底にヨシの枯れた茎が敷かれ周囲は碱蓬と少量のミクリで構成されている。④巣6, (8号巣), 巣底にヨシの茎が敷かれ, 周囲はヨシとミクリの枯れ草で出来ているが, 巣の上縁は碱蓬で作られている。碱蓬の占有率は40%程度, 6巣の計測値は平均外径21.75×18.5cm, 内径12.0×13.0cm, 高さ9.25cm, 深さ4.75cm, 最も小さいものでは外径15.0×13.0cm, 内径10.0×10.0cm, 高さ5.0cm, 深さ6.0cmのものがあつた。

1992年コロニー内に他の2卵を発見した。その1卵は枯れたヨシの上に巣を作った形跡があ

るが、卵はすでに破損していた。他の卵は、地上にこの鳥によって残されたわずかばかりの巣造りの形跡が、足跡とヨシの茎とともに残っていた。卵は冷たくなっていた。

広利河と淄脉河合流部のコロニーは、ほとんどの巣が上げ潮により打ち上げられたヨシの枯れ茎の上に作られ、1992年の調査で67%(6巣中4巣)の巣が、1993年には70%(10巣中7巣)が打ち上げられたヨシの枯れ茎の上に作られていた。このことは、ズグロカモメが繁殖期間の潮位に適応しているのではないかと考えられ、さらなる研究が待たれる。

#### 4. 卵の調査状況

ズグロカモメの卵は淡緑色で、濃い褐色の斑点がある。1巣の卵数は通常3卵で、2卵、1卵は少数である。1992年までに17卵の計測を行なった結果は、平均卵重33.2g(30.0~36.5g)、平均卵径39.9mm(47.0~52.4mm)×36.0mm(34.3~41.1mm)であった。

ズグロカモメの巣、卵の状況は観察時抱卵中期であり、とりわけ広利河と淄脉河合流点のコロニーでは平均重量33.5gであることから新鮮であることがわかり、巣の周辺に雛の糞がみられなかったことから、抱卵に入って間もないものと思われた。遼寧鳥類研究所梁余研究員によると、遼寧省盤錦湿地のズグロカモメと比較して、繁殖期が遅れているものが非常に多い。その原因は不明で、今後の研究に期待する。

#### 5. 結論

黄河三角州地区は豊富な湿地資源があり、しかも、多くが原始状態を呈し、人の干渉も少なく、新しい土砂の堆積は年々拡大し、潮間帯は前へ、前へと渤海湾に向かって伸長、展開しており、生物環境に適当な範囲で広がり、これがズグロカモメの生息、繁殖に有利に働き、調査結果に見られるズグロカモメの個体数が増加し、分布の拡大となった。これは、我が国が世界のズグロカモメの主要な繁殖地であり、その繁殖地の発見はズグロカモメの保護のために重要な意義があり、我々はこのことを十分に重視しなければならない。

#### 訳注

\*1 碱蓬 (*Suaeda glauca*) ; アカザ科, マツナ属, 東北, 西北, 華北から山東省, 河南省, 浙江省, 江蘇省に分布し, アルカリ性土壌, 含塩性土壌を好む。

\*2 黄眼蟹 ; 中国における記載も和名も不明。

\*3 高さ6.0cm, 深さ10.0cm ; 高さより深さが深いということはどう考えるべきか。巣底の砂が掘り下げられているのか。